

自分の命は自分で守る
「できることからやってみよう！災害ボランティア」令和3年 12月6日
6年1組教室 計24人
(特別支援交流学級1人)

1 単元のデザイン

育成を目指す資質・能力

総合的な学習の時間の見方・考え方

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること。

【知識及び技能】

・相手意識をもって災害支援に取り組む技能を身に付けると共に、災害支援の意義を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

・持続可能な災害支援について、既習事項を生かしながら思考し、目的意識をもって表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

・災害支援について、学習の中で自分なりに解決方法を考え、協力しながら学習に取り組む態度を養う。

単元について

本校では、「『生きる力』を育む防災教育の展開（文部科学省 平成25年）」、小学校段階における防災教育の目標「日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童」を受けて、第3学年から第6学年までの共通単元「自分の命は自分で守る」を設定した。本単元では、第6学年の主単元「命輝け！」と関連させ、自然災害に関わって、自分がこれからどう生きてくのかを探究していく。1学期には「『0706ミュージアム』をつくろう」において、平成30年7月西日本豪雨災害について調べ、下級生に伝える学習に取り組んだ。その中で、当時支援をしてくれた人々に感謝し、今、自然災害に苦しんでいる人々に関わりたい気持ちが芽生えた。本単元では、その思いを生かしながら、「自分にはどんな災害支援ができるのか」と情報収集・実践し、さらに「これからどのように自然災害と向き合っていくのか」と思考を深めていくことをねらいとしている。今回だけでなく、持続可能な活動にしていくことで、中学校での学びにつなげていきたい。

天応地区は、西日本豪雨災害で大きな被害を受けた。過去にも土砂災害などの歴史があり、防災教育を行うことは急務である。一方で、不安や恐怖を体験している児童がいることから、心のケアに配慮しながら進める必要がある。

児童について

- ① 本学級の児童は、1学期に「『0706ミュージアム』をつくろう」という小単元において、下学年に西日本豪雨災害について伝えるという学習を行った。その振り返りの中で、「今災害が起こっている地域に手紙を書きたい。」「支援をしてくれた人たちにお礼を伝えたい。」「将来ボランティアに参加したい。」などの思いをもつことができた。
- ② 多くの児童が主体的に学習に関わっていたが、調べたり、読み取ったり、まとめたりする技術が十分でなく、支援を要した児童もいた。
- ③ 伝える活動については、相手意識をもって伝えられたことに満足した一方、「もっと説明や感想を文字で残したかった」「始めから何をどのように伝えるか考えておけばよかった」という課題も見付けていた。

指導の工夫について

- ① 1学期の振り返りを生かすと共に、何らかのアクションを起こすことで、主体的な学習につながるようにする。また、やりたい支援が、本当に相手にとって必要な支援なのか考えさせることで、対話（コンタクト）の必要性をもたせる。
- ② 必要な情報収集の方法（資料の読み取り・検索方法・インタビュー・メール・手紙など）を具体的に指導し、次の主体的な活動につなげる。思考や表現のツールとしてタブレットを活用する。
- ③ 「天応マチづくり討論会」が目的のあるゴールとなるよう、他者への協力を求める場として課題設定をする。災害支援を持続可能な活動にしていく方法を考えさせる。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①災害支援には様々なものがあり、その状況によって必要なものが異なることを理解している。 ②学んだことをもとに自分たちにできることを考え、調べたり実行したりしている。 ③災害支援についての認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①1学期の取組から新たな問いを見いだし、課題を設定すると共に解決するための見通しをもって計画を立てている。 ②課題を解決するために、必要とする情報を、相手意識をもって取捨選択している。 ③持続可能な災害支援にしているために、視点をもって情報を整理し、発信している。 ④学習を通して気付いた自己の変容や成長を、適切な方法を選び、表現している。	①課題解決に向け、自分の思いを生かしつつも、相手に配慮しながら行動しようとしている。 ②自分たちにできることを具体的に考え、友達と協力しながら実行しようとしている。 ③学んだことを生かし、継続して社会に貢献しようとしている。

3 単元の計画 (全20時間)

時	学習内容	評価			
		知	思	主	評価規準 (評価方法)
1 2	課題の設定 ・1学期の振り返りから課題を設定し、活動計画を立てる。		○		・1学期の取組から新たな問いを見いだし、課題を設定すると共に解決するための見通しをもって計画を立てている。 思 ① (提出テキスト・振り返りの記述分析、行動観察)
課題 自分たちにできる災害支援はなんだろう。					
3 4 5 6 7 8 9 10	情報の収集 ・今自分たちが考えつく災害支援を実行するとともに、グループごとに情報を収集する。 対	○			・災害時の支援には様々なものがあり、その状況によって必要なものが異なることを理解している。 知 ① ・学んだことをもとに自分たちにできる支援を考え、調べたり実行したりしている。 知 ② ○ ・課題解決に向け、自分の思いを生かしつつも、相手に配慮しながら行動しようとしている。 主 ① ・課題を解決するために必要とする情報を、相手意識をもって取捨選択している。 思 ② (提出テキスト・振り返りの記述分析、行動観察)
11 12 13 14	整理・分析 ・分かったことや考えたことを共有し、持続可能な活動にしていく方法を考える。 探		○		・自分たちにできることを実行するために、視点をもって情報を整理している。 思 ③ ・学んだことを共有するとともに、持続可能な活動について具体的な考えをもっている。 思 ③ (提出テキスト・シンキングツール・振り返りの記述分析、行動観察)

15 16 17	<p>まとめ・表現</p> <p>学習したことを「天応マチづくり討論会」で提案するための準備をする。</p> <p>⊗ 【本時2/3】</p>	○		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びや課題が聞き手に伝わるように、伝え方や内容を工夫している。⊗③ ・学習を通して気付いた自己の変容や成長を、適切な方法を選び、表現している。⊗④ (成果物の分析, 振り返りの記述分析, 行動観察)
18 19 20	<p>実行</p> <p>「天応マチづくり討論会」で隣接学年や講師に向けて発表する。</p> <p>振り返り</p> <p>活動を振り返り、新たな課題を整理する。</p>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって、伝えたいことを具体的に考え、友達と協力して伝えようとしている。⊗② (振り返りの記述分析, 行動観察) ・災害支援についての認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。知③ ・学んだことを生かし、継続して社会に貢献しようとしている。⊗③ (振り返りの記述分析)

4 本時の展開 (本時16/20)

(1) 本時の目標

- 災害支援についてのこれまでの学びや課題が聞き手に伝わるように、プレゼンテーションにおける内容を改善することができる。【育成を目指す資質・能力】・・・【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応	◎ 評価規準 (評価方法) ◆ 「努力を要する」状況と判断した児童生徒への手立て
知る	課題の設定 1 本時のめあてを確認する。	◇ 本時のめあての位置づけを知るために第6学年の「主張」を確認する。	
	(めあて) お互いの発表を聞き合い、より説得力のあるプレゼンテーションにしよう。		
確かめる・深める	情報の収集 2 チームごとに自分たちの活動と学びを発表する。 ・赤…支援が必要だった人に ・青…支援を必要としている人に ・黒…これから支援が必要な人に ・黄…支援をしてくれた人に ・緑…支援をしている人に	◇前時の振り返りを活用して視点をもたせる。 ・赤…地域の人からは、食料や水が一番助かったと聞いた。→自分たちにできることを考えたい。 ・青…熱海市にメッセージを送れた。→タイミングを計るための情報と見通しが必要。 ・黒…安芸高田市に、もう必要ないと言われた。→タイミングと備え大切。→これから支援が必要な場合に備えた。 ・黄…手紙に答えて尾畠さんが来てくれたり、作新学院から返事が来たりした。→尾畠さんは、日頃から備えをして支援をしている。ボランティアの組織がある。 ・緑…支援をしている学校は、校外の人に協力してもらっている。→他の人の協力が必要。	
	整理・分析 (主発問) 主張につながる事例と意見が伝えられているだろうか。		
確かめる・深める	3 お互いの発表について、意見や質問を交流する。Ⓐ	◇ 説得力のある発表になるよう、国語科の学習を生かして、事例と意見が伝わっているか意識させる。 ・赤チームのグラフは説得力がある。 ・緑チームは、意見の根拠がスライドに示されている。 ・黄チームの「意見」は、結果かはないか。	
	(深い学びにするための「しかけ」) 黄チームの「つまずき」に注目させる。他のグループと比べることで、意見がないことに気付かせ、クラス全体で意見につながる学びを考える。		
	4 自分たちの発表について改善していく。Ⓑ	◇改善点が明らかになるよう、ワークシートを活用して、見直しをさせる。 ・隣接学年と一緒にやってほしいことを具体的に言ったほうがいい。 ・～の意見の根拠になるデータがいる。	◎災害支援についてのこれまでの学びや課題が聞き手に伝わるように、伝え方や内容を改善している。 Ⓒ③ (ワークシートの分析、振り返りの記述分析、行動観察) ◆全体で具体的な変容や課題解決を共有するための中間指導を行う。

	<p>まとめ・表現</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>◇児童の主体的なまとめとなるよう、今日の学びを児童の言葉からキーワードを拾う。</p>
	<p>(まとめの例) 相手に伝えたいことに焦点をおいて、事例や意見に沿った資料や言葉を選んでいくことが大切。</p>	
振り返る	<p>振り返り</p> <p>6 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>◇自分にどんな力がつきたか意識できるよう、ロイロノートの振り返りカードに色分けをして記入させる。</p> <p>◇相互評価での学びを具体的に記録し、次時へ生かす見通しをもたせる。</p>
	<p>(振り返りの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えていると思っていたが、分かりにくいと言われて、足りないところに気が付いた。 ・他のグループの、・・・という伝え方は自分たちのグループでもやってみたい。 	
		<p>◇次時は、討論会へ向けて、想定される質問や意見を出し合うことを伝える。</p>

5 本時に関わるルーブリック

思考・判断・表現 ③持続可能な災害支援にしていくために、視点をもって情報を整理し、発信している。		
A	B	C
<p>持続可能な災害支援にしていくために、自分たちの活動（事例）とそこから学んだこと（意見）について効果的な情報を整理し、聞き手である隣接学年や講師を意識してより分かりやすく発信することができている。</p>	<p>持続可能な災害支援にしていくために、自分たちの活動（事例）とそこから学んだこと（意見）について情報を整理し、聞き手である隣接学年や講師を意識して発信することができている。</p>	<p>持続可能な災害支援にしていくために、自分たちの活動（事例）とそこから学んだこと（意見）について情報を整理したり、聞き手である隣接学年や講師を意識して発信したりすることができていない。</p>

6 本時の板書計画



7 成果と課題

- 第2次の学習を通して、学び方を深めることができた児童が多かった。第1次の学習では、西日本豪雨のときの被害の大きさやいろいろな方に助けていただいたことを改めて確認することができた。また、ミュージアムでの写真や地図の使い方、説明の仕方について、相手意識をもって考えることはできていた。第2次ではさらに、誰に伝えたいか、どんな言葉が分かりやすいかを考え、そのために必要な資料を選び、相手が納得できる説明をすることを視点に、自分の意見を出し合いながら、より深く考えることができた。持続可能な災害支援について、他教科での学びを生かしながら、目的意識をもって表現する力がついた。
(思考・判断・表現②③, 主体的に学習に取り組む態度②)
- 第2次では、「人」とのつながりに絞り情報収集する中で、困難な場面にもぶつかった。しかし、それを生かして、まず行動すること、タイミングを逃さないこと、最新情報を入手すること等、具体的な学びを実感し、次に生かそうとすることができた。相手意識をもって、災害支援について考える力が育ったといえる。(知識・技能①②③, 主体的に学習に取り組む態度①)
- 第1次では、「どんなことをしてくれたのかを知りたい」から始まったが、第2次の学びで、「自分もボランティアをしたい」「心の面でも支えたい」「困っていることが今もある。日常的にできることをしたい」「町のために活動したい」と、災害時に限らず、自分にできることは何か、自分事として考えることができた。自分たちで解決方法を考え、協力しながら学習に取り組んだことで、貢献しようとする態度が育ってきた。(知識・技能①③, 主体的に学習に取り組む態度③)
- 単元末の振り返りでは、「学習を通しての自分の成長」(思考・判断・表現④)について、否定的評価をした児童もいた。どのような姿を目指しているのか具体的に示すことで、成長を実感できるようにしたい。